

大分市立王子中学校 学力向上プラン 1 (8月)

学校教育 目標	夢実現。挑む・学ぶ・思う生徒の育成
育成を目指す 資質・能力	挑む《健やかな心身の育成》 学ぶ《確かな学力の育成》 思う《豊かな人間性と社会性の育成》

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○3年生全国学力・学習状況調査正答率・IRTスコア(県/全国) 国語(県58/全58.1) 数学67(県55/全57) 英語(IRT)512(県484/全499) ○2年生県学力定着状況調査正答率(県/目標値) 国語68.5(県64.6/目標59.2) 社会54.5(県50.3/目標50.3) 数学65.7(県59.0/目標57.2) 理科56.3(県53.4/目標50.3) 英語57.3(県48.6/目標50.5) ・各教科とも特定の単元や分野で復習が必要な部分が見られたものの、全教科で県や全国の平均正答率と目標値を上回った。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・国語と英語と比較して、数学の正答率は全国や県に比べて高いが、数学を得意または好きだという生徒の割合は全国や県と比べて低い傾向にある。興味や関心を高める題材を取り上げICT機器を活用させ、学習内容が定着するよう継続する。また、生徒の実生活と学習内容とを関連付けた課題の設定を行い、主体的に授業に取り組める機会を増やす必要がある。 ・各教科の基礎的・基本的な知識が身に付いている生徒は多いものの、「筋道を立てて説明する力」が不十分であり思考力・判断力・表現力を高める学習活動の充実が必要である。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○「授業が楽しい、分かった」と答えた生徒88.0% ○「自分の意見や考えをもち、進んで話したり考えたりすることができた」と答えた生徒84% ○「授業の『振り返り』では、考えをまとめて書いたり発表したりした」と答えた生徒90% ○単元末テストで40点未満の生徒の割合16%	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○「日常の授業の中で思考の流れに沿った『課題』の設定を意識した」教職員94% ○「授業の中で計画的に意見交流や説明をし合う学習の場を設定した」教職員89% ○「日常の授業の中で『振り返り』を位置付け、生徒が振り返るための時間を確保できた」教職員89% ○「授業においてデジタルドリルやICT機器を積極的に活用した」教職員80% ○授業改善に向けた振り返り生徒アンケートの実施 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○朝学習の時間を利用した読書や視写の取組の継続、単元テストなどの実施 ○補助教材やデジタルドリルなどを計画的に利用した家庭学習の充実 ○夏休み中の学習相談日の設定 ○王中学習タイムの設定	

学力に関する達成指標

- ①「授業が楽しい、分かった」と答える生徒90%以上
 ②「自分の意見や考えをもち、進んで話したり考えたりすることができた」と答える生徒90%以上
 ③単元末テストで40点未満の生徒の割合15%以下

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 1時間完結型の授業(王中スタイル)づくり ○こどもが主体的に取り組むことができる課題の設定 ○意図的なペア・グループトーク ○ICT機器等の活用を含めた話し合いの場の工夫	
	〈取組内容〉 ○単元内で1回以上、意見交流や説明などをするために、「目的」や「相手」を意識したペア・グループ学習を位置付ける。	〈家庭・地域の取組内容〉 ○保護者がこどもに関心をもち、こどもと話す。 ○授業参観や学校行事に参加する。
	〈取組指標〉 ○各教科は、単元内で1回以上課題解決的な学習を取り入れ、主体的で対話的な学びを計画する。 ○互見授業や教科部会を行う。	〈家庭・地域の取組指標〉 ○進路や仕事、学校生活や社会で起きていることなどについて、こどもと会話する。 ○学校公開日や清掃などの学校行事に参加する。
	〈検証指標〉 ○「こどもが主体的に取り組むことができる『課題』の設定を意識した」教職員94%以上 ○「自分の意見や考えをもち、進んで話したり考えたりすることができた」と答える生徒84%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ○「家庭で週1回以上、こどもと10分程度進路や仕事・学校生活や社会で起きていることについて話した」保護者80%以上 ○「授業参観日に参加した」保護者80%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○クロスラーニングタイムで教え合いや単元テストなどを実施して、基礎的・基本的な学力を定着させる。 ○家庭学習で各教科の問題演習を計画的に実施したり、ドリルパークを活用したりして個別最適な学習を行う。	